

第1回 町会・自治会のあり方と区との協働に関する調査研究委員会（会議記録）

□日時 2014年8月25日（月）10時～12時

□場所 品川区役所第二庁舎4階災害対策本部室

□参加者

<区長>

濱野 健

<学識者>

委員長 名和田 是彦（法政大学法学部教授）

副委員長 大島 英樹（立正大学法学部教授）

学識委員 藤井 賢一郎（上智大学総合人間科学部准教授）

<町会・自治会関係者>

副委員長 近江 清光（品川区町会連合会会長・大崎第一地区町会自治会連合会会長）

委員 保科 義和（品川区町会連合会副会長・品川第二地区町会連合会会長）

委員 鶴見 一三（品川区町会連合会副会長・大井第二地区連合町会会長）

委員 関 召一（品川区町会連合会副会長・荏原第二地区町会連合会会長）

委員 千葉 雅雄（品川区町会連合会副会長・荏原地区第四連合町会会長）

<品川区>

委員 本間 敏明（副区長）

委員 山田 恵美子（副区長）

委員 桑村 正敏（企画部長）

委員 中川原 史恵（地域振興事業部長）

委員 榎本 圭介（健康福祉事業部長）

委員 松代 忠徳（防災まちづくり事業部長）

<事務局>

企画部行財政改革担当課長（柏原）、地域振興事業部地域活動課長（久保田）、企画部企画担当主査（狩野）、企画部企画担当主査（勝亦）、地域振興事業部地域活動課地域支援係長（安藤）、㈱ダイナックス都市環境研究所・NPO法人横浜プランナーズネットワーク（山本、北坂、内海、杉野、谷口）

□次第

1. 開会
2. 区長挨拶
3. 委員紹介
4. 諮問
5. 品川区の人口動態と町会・自治会の現状について
6. 意見交換
7. その他
8. 閉会

（会議要旨）

1. 開会

2. 区長挨拶

町会・自治会は法令上では地方自治法に地縁団体として記載されるのみで法的な位置づけがなされていない。このため、長年地域のためにご尽力いただいているにも関わらず、皆様の功労に国は直接報いることがありません。

一方で社会情勢に目を移すと、急速に高齢化が進み、介護・医療を受けられる方を始め、支援が必要

な方、介護予防が必要な方が急速に増大するのは明らかである。

こうした中で、公的サービスだけではなく、地域の方々を地域全体で支え合っていく共助・協働の姿勢と制度は欠かせないものになっていくと思う。高齢化に限らず、防災や防犯といった地域の安全・安心、青少年の育成など今後地域を支え、守っていく存在として、町会・自治会の重要性はますます高まっていく。

委員の皆さんの英知を結集して、町会・自治会の意義と重要性を区民の皆様にアピールできるような方策を考えていただきたい。

3. 委員紹介

4. 諮問

区長より委員長へ諮問文を手交
(区の地域社会における町会・自治会の意義や役割、区との協働について諮問)

5. 品川区の人口動態と町会・自治会の現状について

- 品川区の人口・世帯の推移、人口推計について（柏原行財政改革担当課長）
資料に基づき説明
- 地域の居住者特性について（谷口ダイナックス都市環境研究所客員研究員）
資料に基づき説明
- 品川区町会・自治会の現状について（久保田地域活動課長）
資料に基づき説明

6. 意見交換

- 各地区の状況について（町会・自治会関係委員）
 - ・交通安全、防災、区民まつり、総合防災訓練等があり、町会・自治会全体で協力してやっている
 - ・夏休みにはスイカ割り、お正月には餅つきなどのイベントを開催
 - ・イベントには大勢が来るが、交通安全や防災などの参加者は少ない
 - ・マンション1棟がまるまる未加入というものが3棟ある・マンション、町会が半々の割合で存在している
 - ・地域の半分が高齢者であることから、今後年寄りの町会になるのでは（若者は結婚後に転居してしまう）
 - ・品川地区は古い町で昔から住んでいる人が多い
 - ・品川神社と荏原神社のお祭りが地域の絆を深めている
 - ・マンションの加入促進だが、新しいマンションが建つ際にデベロッパーと協議し、入居者の町会加入について覚書を交わすよう各町会長には言っている
 - ・自治会は高齢化している
 - ・自治会の高齢者は町会連合会で行うイベントにはあまり参加せず、また子供たちは参加してもなかなか溶け込めないでいる
 - ・町会の区割りについて防災等の観点から見直すべき
 - ・国道15号線を挟んで町会が分断されているところがあるので、区割りについて町会だけで話し合うのではなく、行政の方からの提案もしていただきたい
 - ・町会会館を持っていないところは、会合をする場所が地域センターしかないため、予約が埋まっていて使えないこともある。町会会館保有への区からの支援をお願いしたい。
 - ・環境が違うので、町会・自治会の運営の仕方も異なる
 - ・高層住宅は町会に加入してもらっているが、管理会社が棟を管理しているので、中の住民とコミュニケーションがとれないことが問題となっている
 - ・資料7に入学お祝い金とあるが、個人に対して交付するのではなくて、地域・町内全体を守るための金の使い方（AEDや防犯カメラの設置など）を考えるべきである

- ・新しくできたマンションについては、区の町会加入促進の指導で加入が進み、町会費は1棟分まとめて振り込んでもらっている
- ・ただ、管理会社任せなので住民とのコミュニケーションがとれていない
- ・未加入のところには、町会で作成したチラシを配っている。結果、ちらしについている申込書で年間2・3件申し込みがあった。・独身世帯、特に学生が多いので、大学にお願いして防災面などで協力してもらっている
- ・マンションのセキュリティの関係で学生には回覧を回せないなので、活動報告や行事予定を記載した町会の広報（年間10回ほど発行）を独自に作成し、加入している単身者のポストに入れるようにしている
- ・定年退職した男性は地域の活動に出てこない
- ・課題については、少子高齢化と防災、認知症だが、少子化は国の施策の問題。高齢化は喫緊の課題
- ・2世帯で住めるような大きな家がないので、子どもは結婚すると出て行ってしまう。
- ・問題は町内2カ所にあるゴミ屋敷。以前その1軒で火災があったが、一向に解決せず、近隣住民は不安を持って暮らしている
- ・個人情報の取り扱いについて。ある程度情報を開示しないとイケないときもある。区から個人情報の取り扱いについて再度周知してほしい
- ・認知症の問題を抱えている町会・自治会はたくさんある。区で把握して、近所の方に知っていただくように情報の問題にも取り組んでいただきたい
- ・町会・自治会からは介護の情報は得られないので、情報を流していただきたい
- ・子どもや地域の方に防災の避難など解決に向けて区と取り組みたい

○まとめ（委員長）

- ・町会自治会が地域で地道に活動されている様子がよく伝わる貴重なお話をいただいた。
- ・他自治体では単身世帯と二人世帯で総世帯数の半分以上を占めている例は見受けられるが、品川区では単身世帯だけで総世帯数の半分以上を占めている（世帯規模の縮小傾向が強い）

○質疑

区委員：平成21年から加入促進策に取り組んできているが、町会・自治会のニーズに合ったものであったかは、再度考えなければならない。地域共通で持っている問題と、地域固有の問題を整理すべき。

区割りの問題等、町会・自治会が動きやすい環境づくりについて課題整理させていただきたい。

町会・自治会関係委員：町会・自治会の加入について、商店街においてチェーン店などで町会・自治会に加入しないお店があるという悩みがある。

委員長：商店会にも入らないというお店もある。

区委員：認知症の個人情報について。個人情報を公開することで、介護を受けている方が逆に悪徳業者に引っかかるというケースがあるので、個人情報をどう扱うかが課題である。介護や健康づくりも含めて地域で暮らしやすくするために議論できればと思う。

委員長：今後、地域福祉に関連した活動が町会・自治会の活動の中で増えていくのだろうと一般的に思っているが、5人の会長様たちのお話には、やはりそういった活動につながっていくお話が多くあったと思う。

学識委員：介護の事業所が、町会・自治会に積極的に加入する・参加する動きがあるが、こういう関わり方がいい。品川区でも介護の事業所に町会・自治会に参加するように働きかけるようにすると良いかもしれない。

高齢化の問題には、認知症の問題があるが、町会・自治会、区、事業所が早い段階でお互い理解した上で関わり合うと何か問題を起こすということに関しては予防できるのでは。認知症だけでなく、様々な高齢者に関わることを、家庭の問題にとどめずに町会・自治会など地域で共有することが大事である。事業所が町会・自治会にかかわることが理想かと思う。介護保険については、品川区は先駆的で品川モデルと言われる面もある。こういった地域の関わりも品川モデルのようなものを作っていくとよい。

各町会・自治会でそれぞれ工夫していると思うが、町会・自治会内の成功事例などを相互に共有しているのか。

区委員：よその町会・自治会について知りたいという意見があったので、町会塾で事例発表を行っても

らっている。また表彰する等の仕組みも作り、町会・自治会の取り組みを紹介している。町会塾で十分であるかどうか検証し、見える化して成功事例を紹介することは大事だと考えている。

町会・自治会関係委員：活動に関わる財政レベルの話で言えば、町会費の額が町会・自治会の規模などによってそれぞれ異なることから、同じレベルで何か事業をやろうとすると難しくなる。各町会・自治会ではなく、連合町会という単位のなかで何かを創るということ（共有していくことができれば）が今後いいのでは。

委員長：全国の町会・自治会のなかでも（一町会）単位ではやりきれなくなったことを連合でやるというケースがある。ひとつの方向性として連合レベルで動くということは、区との整合性もとれいいのでは。

学識委員：地域の関わり合いが決め手になるのでは。

地域の活動に男性が出てこないという話題が出たが、シルバー大学などは人気のようだ。連合エリアくらいに分校をつくるなどして、地域の喫緊の課題を考えるための方法として、「学び」もあると思う。

委員長：今後、アンケートを実施する予定だが、項目については行政や町会・自治会の知見が必要である。

品川区内の町会・自治会は民生委員と連携されているのか。

町会・自治会関係委員：要支援者名簿は、民生委員の方に一部と近隣の班長の連絡先を教えている。

町会・自治会関係委員：大井第二地区では民生委員は町会長が推薦するが、民生委員になると町会の役員をやめてしまう人もいるため、役員に残ることを条件にして民生委員に推薦している。

委員長：ごみ集積所の管理をしなくなったなど、項目数としては町会・自治会の仕事は減っている。町会・自治会の仕事が減ると地域における目立ち方が減って加入率が減るという現象が他の自治体ではよく見られる。目立たなくなっているが、実際には仕事は増えている。しかし品川区の町会・自治会はがんばっており、地域に密着して活動していて地域の状況を把握している。きめ細かで、地道な努力をしながら地域活動を行っていることから、品川区の町会・自治会が現在の加入率を維持できているのだと思う、そのことに自信と自負を持って町会・自治会の存在をよりアピールし、発展していけるようになると思う。

民生委員や商店会との関係も重要である。まだ地域が元気うちに、高齢化などの課題への対応を考えていきたい。

7. その他

事務局：次回第2回目の調査研究委員会は10月10日（金）10時からを予定している。

8. 閉会

以上